

第 33 期 事 業 報 告

〔 自 2021年4月 1日 〕
〔 至 2022年3月31日 〕

株式会社 NHKエンタープライズ

目 次

第3 3期事業報告

I. 会社の現況に関する事項	2
1. 事業の経過および成果	2
2. 事業の分野別の概況	5
(参考) 2021年度 コンクール等受賞一覧	34
3. 対処すべき課題	37
4. 設備投資等の状況	38
5. 資金調達の状況	38
6. 事業譲渡・吸収分割または新設分割の状況	39
7. 事業譲受の状況	39
8. 他の会社の株式その他の持ち分または新株予約権 等の取得の状況	39
9. 財産および損益の状況の推移	39
10. 主要な事業内容	39
11. 主要な事業所等	39
12. 従業員の状況	40
13. 重要な親会社および子会社の状況	40
14. 主要な借入先と借入額	41
II. 会社の株式に関する事項	42
III. 会社役員に関する事項	43
IV. 会計監査人の状況	45
V. 業務の適正を確保するための体制および運用状況	46

I. 会社の現況に関する事項

1. 事業の経過および成果

「2021～2023年度 中期経営計画」の初年度にあたる2021年度は、経営理念「Enterprises for All! 冒険・創造・貢献。社会のために、すべての人のために!」を掲げ、5つの重点項目（①コア事業の革新、②新規事業の開拓、③地域サービスの向上、④Smart Work、⑤SDGsへの貢献）を柱に、多くの分野で積極的な取り組みを行いました。さらに、7月には大幅な組織改正を行い、経営課題にもスピーディーに対応できる組織に生まれ変わりました。2021年は、新型コロナウイルスの影響が続きましたが、ニューノーマル時代に合わせた様々な制作手法やイベント演出、さらに固定費の削減や業務の効率化で原価を抑制するなど、全社員が一丸となった努力によって、対2020年度比で売上は大きく上回る成果を収めることができました。

当期の売上高は620億2千6百万円、営業利益は19億8千5百万円、経常利益は20億5千百万円、当期純利益は15億千2百万円で2020年度と比べ増収増益となりました。営業利益は当期減少しましたが、これは退職給付債務の計算方法を簡便法から原則法に変更したことが要因となっています。なお、NHKに対する副次収入は14億6千8百万円で、目標の13億2千万円を上回り目標比111.2%となり、NHKブランドのリーチに一定の貢献を行うことができました。

NHK関連の業務では、2022年度改定で指針として掲げる「新しいNHKらしさ」を目指し、新規コンテンツの開発に取り組みました。総合テレビでは、NHKの豊富な映像アーカイブスを活用した「映像の世紀 バタフライエフェクト」や、考える過程を楽しむ新しいクイズ番組「発想転換! 世界を変えるシン・キング」。Eテレでは、若年層をターゲットにした「バリューの真実」や、SDGs関連番組「ギョギョッとサカナ★スター」、哲学者の言葉を分かりやすく解説し進むべき道を提案する「ロッチと子羊」、子どもから大人まで楽しめる教育バラエティー「ワルイコあつまれ」などの番組を開発し、新年度の定時番組となりました。また、ドラマでは、松本清張原作の「混声の森(前後編)」や「二十四の瞳」、8Kドラマ「海に見える理髪店」といった単発特集ドラマとともに、SNSで話題となった「オリバーな犬、(Gosh!!) このヤロウ」や、「岸辺露伴は動かない」などの個性的なドラマも制作しました。一

方で、コロナ禍で激変する世相に落合陽一が切り込む「ズームバック×オチアイ」や、新たなライフスタイルを模索する若者を追った「いいいじゅー！！」など、ウイズコロナの時代を見つめる番組も制作しました。

当社が開発した、過去のビデオ映像を4K並みの高画質に変換する「ビデオレストアサービス」の事業は、昨年度に続き好調でした。「伝説のコンサート」シリーズでは、「チェッカーズ ファイナルツアー」、「西城秀樹 デビュー50年スペシャル」などを高画質化して放送し、大きな反響を得ました。さらに「プロジェクトX」や「NHK特集」、「映像の世紀プレミアム」などのドキュメンタリー番組も放送しました。

定時番組では、総合テレビゴールデンタイムの「チョコちゃんに叱られる!」、「有吉のお金発見 突撃!カネオくん」、「所さん大変ですよ!」、「ダーウィンが来た!」などが好調で、いずれも新年度も定時番組として継続されます。また、地域が舞台の番組としては、BSプレミアムでは俳優の火野正平さんが全国を自転車で旅をする「にっぽん縦断こころ旅」や、根強い釣り人気で50代男性の視聴が伸びた「釣り人万歳」。総合テレビでは、全国各地の食材を取り上げる「うまいッ!」などの定時番組も制作しました。

アニメでは、総合テレビの「キングダム3」を制作・放送し、幅広い世代に視聴されました。Eテレでは「魔入りました!入間くん2」、「不滅のあなたへ」を放送しました。「不滅のあなたへ」は全世界にも配信しましたが、視聴ランキングトップ10に入るほどの支持を受けました。

さらに、大型ドキュメンタリーやドラマ番組など、数多くのコンクールで受賞しNEPのコンテンツ制作力の高さを示しました。プロフェッショナル 仕事の流儀「庵野秀明スペシャル」が第37回ATP賞テレビグランプリのグランプリとともに、ドキュメンタリー部門の最優秀賞を受賞しました。新日本風土記スペシャル「松本清張・鉄道の旅」は第58回ギャラクシー賞奨励賞とともに、ATP賞テレビグランプリの情報・バラエティ部門で優秀賞を受賞。自然科学分野では、ワイルドライフスペシャル「ワイルド東京」がニューヨーク・フェスティバルのドキュメンタリー部門で金賞を受賞しました。さらに土曜ドラマ「今ここにある危機とぼくの好感度について」が文化庁芸術祭のテレビ・ドラマ部門で大賞を受賞し高い評価を受けました。

イベント関連では、前年度からオンライン手法を積極的に取り入れ、新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じて、柔軟に対応できる体制を構築して臨みました。「ロ

ポットコンテスト」や「エネルギーシンポジウム」では、リアルとオンラインによるハイブリッドに切り替えて実施するなど新たなイベントの可能性を確かなものになりました。さらに、前年度延期となった「国民文化祭りやざき」「全国豊かな海づくり大会 宮城大会」と2021年度の「国民文化祭わかやま」という大型イベントを実施。天皇皇后両陛下は、「オンライン行幸啓」でのご参加となり、皇居と会場をリアルタイムでつなぎ開催しました。

その他、自主事業としては、NHKで放送した番組を大学のオンライン授業の教材として活用してもらう「オンライン授業用番組ライブラリー」がスタートし、4大学で利用が始まりました。提供できるコンテンツも201番組に拡充し、NHK離れが加速する若い世代にNHKの優良番組に触れてもらう機会にもなっています。さらに、最先端カメラで美術品を超高画質で撮影する、超高解像度自動撮影システム（MoCoSS）も事業化し、新しい映像体験・美術鑑賞への展開を進めています。2月には、総務省が実証実験を行った「ローカル5Gを活用したケーブルレスマルチカメラ演出」に参加して演出手法を開発し、今後の映像演出の可能性を切り開きました。

DVDやブルーレイの映像ソフト販売については、2021年度はターゲットを的確にとらえた商品開発や、販売手法を直販にシフトすることで利益確保を目指しました。コロナ禍による巣籠もり需要は落ち着きましたが、「世界は欲しいモノにあふれてる」「連続テレビ小説 おかえりモネ」「岸辺露伴は動かない」「悲熊」など、想定を超えた大ヒットにも恵まれ、前年度を上回る成果を上げることができました。

SDGsについては、社内に発足したSDGsプロジェクトの活動が2年目となりました。SDGsの達成を目指し取り組むべき重要課題を「環境問題」と「社会問題」の2つに絞り込み、NEPの強みを生かした社会貢献事業に取り組みました。

また、昨年度発足した、社長直轄のプロジェクト・業務改革推進室が事務局となって、「会計システム」「管理会計」「著作権」「事業管理」の4つの分科会で新システム導入を進め、“全社的な業務改革”に着手しました。

先行き不透明な経営環境が続きますが、2022年度も、「Enterprises for All!」をキャッチフレーズに、冒険する心を持ち、困難があっても新しいことを企て、勇気をもって挑戦する。この精神を忘れず、様々な事業に全社一丸となって挑戦していきます。

2. 事業の分野別の概況

(1) <放送番組制作>

2021年度は、新型コロナウイルスの影響が続く中、リモート収録や遠隔ロケシステムの導入、無観客での収録など、感染対策に十分配慮しながら制作に取り組みました。ドラマやドキュメンタリー、アニメやエンターテインメント番組などNHKのテレビやラジオ番組を合わせて18,985本の番組を制作、売上高は418億6百万円でした。

番組コンクール関係では、第37回ATP賞で『プロフェッショナル 仕事の流儀 庵野秀明スペシャル』がグランプリを受賞、『新日本風土記スペシャル 松本清張 鉄道の旅』が優秀賞、『BS1スペシャル「外出自粛の夜に～ウクレレでリレー演奏会」』『グレートヒマラヤトレイル セクション4 カンチェンジュンガ 五大宝蔵を求めて』『スペシャル時代劇 十三人の刺客』が奨励賞受賞、この他にも多くのコンクールで受賞し、制作力の高さを示しました。

制作企画部

制作4センターの調整役として、事業提案のとりまとめや委嘱業務審査会の事務局業務、新ERP導入に伴う番組制作における共通ルールの構築や業務フローの提案を通じて制作現場を支えました。下半期からは新たにNHKミュージックライブラリーの音源制作と展開にも取り組みました。また、番組制作に欠かせない、映像・音声等の編集リソースの効率的な運用と的確なマネジメントを継続して行いました。

社会情報部

「新しいNHKらしさ」を体現するコンテンツの開発に積極的に取り組みました。総合テレビでは、NHKならではの豊富な映像アーカイブスを活用した「映像の世紀 バタフライエフェクト」、Eテレでは、調査の手法を制作過程に組み入れて若い世代に訴求する「バリューの真実」や、身近な魚に関する知識を深めながら「海の豊かさを守る」大切さを学ぶSDGs関連番組「ギョギョッとサカナ★スター」といった新番組を開発し、定時化を決めました。このほか、総合テレビでは「チョコちゃんに叱られる!」「所さん!大変ですよ」「プロフェッショナル 仕事の流儀」「ニュース シブ

5時」、BS1では「COOL JAPAN」「球辞苑」「BS1スペシャル」、BSプレミアムでは「ヒューマニエンス40億年のたくらみ」「梅沢富美男と東野幸治のまんぷくメシ!」、国際番組では「Trails to Oishii Tokyo」「DESIGN TALKS PLUS」など、多彩なジャンルの番組を制作しました。また、独自事業として、東京オリンピック・パラリンピック関連の「聖火リレー デイリーハイライト映像制作」、2025年の大阪・関西万博関連の「ブルー・オデッセイプロジェクト メディア配信事業」など、新しいビジネスの開拓に取り組みました。

文化部

「NEPでしかできない」強みを生かした多彩な新番組の開発に取り組みました。総合テレビでは、標高1500m以下の身近な山を体感しながら、自然や歴史について学ぶ「吉田類のにつぼん百低山」、Eテレでは、偉大な哲学者の言葉をわかりやすく解説し進むべき道を提案する「ロッチと子羊」や、コロナ禍で深い悩みを抱える人々の心に寄り添う「美輪明宏 愛のモヤモヤ相談室」、国際番組ではLGBT、障害などを抱えながらもオシャレでクリエイティブに生きる若者たちのドキュメント「Five Frames for Love」の定時化が決定しました。また、これまで培った歴史や美術、山岳分野の専門知識や撮影のノウハウを生かし、総合のシリーズ特集「日本最強の城スペシャル」、「ミステリアス古墳」のほか、BS1スペシャル「真珠湾80年生きて愛して、そして」「空の証言者 ガンカメラが見た太平洋戦争」、BSプレミアム「激走!ニッポンアルプス大縦断 不屈の男たち」「忠臣蔵狂詩曲No.5 中村仲蔵 出世階段」など大型特集にも取り組んできました。この他、総合テレビでは「ファミリーヒストリー」、BSプレミアムでは「新日本風土記」、「英雄たちの選択」、「グレートトラバース」、「世界ふれあい街歩き」、「岩合光昭の世界ネコ歩き」、「晴ときどきファーム」、Eテレでは2021年度文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門大賞を受賞した「浦沢直樹の漫勉 neo」、「怖い絵本」、「ターシャの森から」など、多彩なジャンルの番組を制作しました。また、日本の伝統芸能を世界に発信するオンライン動画の作成や、首都高速道路の安全と保守技術を紹介する映像制作など、独自事業の獲得にも力を入れました。

コンテンツ開発部

幅広い視聴者層に向けた多様なジャンルの放送番組を企画・制作する一方、ユニークで個性的な番組を積極的にSNSで発信し、若年視聴者層を中心に大きな話題となりました。また、舞台製作への参画や配信コンテンツ制作にもチャレンジし、NEPのプレゼンスを示しました。

総合テレビでは、世の中のお金にまつわるヒミツを掘り下げるバラエティー番組「有吉のお金発見 突撃！カネオくん」が放送開始から3年目に入ったほか、毎月全国各地から生放送する「今夜も生でさだまさし」などの定番番組、人気俳優、オダギリジョーの演出に加え、突飛なストーリーとビジュアルでSNSを中心に話題沸騰したドラマ「オリバーな犬、(Gosh!!) このヤロウ」や、独特の世界観が大評判となった「岸辺露伴は動かない」の続編などの個性的なドラマ、さらに、SNSと連動しマンガの創作をリアルに迫った「むちゃマン」などの制作も行いました。Eテレでは、メディアアーティストの落合陽一が、コロナ禍によって激変する世相に鋭く切り込む「ズームバック×オチアイ」、BS1では「欲望の資本主義」や「グレートレース」などのおなじみの番組に加え、アニメ界の巨匠、庵野秀明監督の実像に迫ったBS1スペシャル「さようなら全てのエヴァンゲリオン」、BSプレミアムでは、川端康成の名作に新たな解釈を加え、美しい映像で描いたドラマ「雪国」、国際放送向けには、奥深い日本の釣りの世界を紹介した「Fishing Crazy」などに取り組みました。

このほか、配信コンテンツでは、「ほぼ日の学校」、「スタディサプリ」、経済産業省が進める「STEAM ライブラリー」、KDDI・プレジデント社による「アート思考オンラインプログラム」など教養分野のコンテンツ、Yahoo! Japanの人気動画配信チャンネル「Red Chair+」のコンテンツなども制作しました。また、東京大学から受託し、量子科学についてわかりやすく説明した配信コンテンツの制作、NHK番組「世界ふれあい街歩き」のコンサートの企画・制作も行いました。

自然科学部

定時番組では、総合テレビ「ダーウィンが来た！」「さわやか自然百景」、BSプレミアム「ワイルドライフ」の3番組を制作しました。

特集番組では、5本のNHKスペシャル（「北の海 よみがえる絶景」「パーフェク

トプラネット」「新・映像詩 里山 第1・2回」「恐竜超世界 in Japan)を制作し、大きな反響を呼びました。この他にも「ダーウィンが来た！15周年 SP その手があった！絶滅レスキュー大作戦」「生命起源への旅」など特集番組を制作しました。

4K・8K番組制作にも積極的に取り組んでいます。3つの定時番組と主な特集番組で4K一体化制作を進めています。8Kについては「新絶景タイムスケイプ」「おくのはそ道紀行」「新・映像詩 里山 第1・2回」「野生の瞬間 嶋田忠 北の清流でヤマセミ・カワセミを追う」を制作しました。また、自主事業としては、「劇場版ダーウィンが来た！第3弾」制作、福井恐竜博物館の展示映像制作などを行いました。

また、コロナ禍でのコミュニケーション不足解消と情報共有、スキル向上をめざし、毎週1回の Teams ランチ会を開催、部員同士の学ぶ場として役立てています。

地域部

2021年度は各地域でコロナ禍の影響を受けながらの制作となりました。

定時番組では、全国を旅する「にっぽん縦断こころ旅」で滋賀・京都での旅を見送るなどの影響がありました。その代わりに、視聴者からのリクエストに応える「リクエストアワー」などの新規番組制作を行いました。屋外スポーツの釣り人気は今年度も続き、BSプレミアム・BS4K「釣りびと万歳」の視聴が向上しました。50代男性など現役層視聴も伸び、2週連続で同じ釣り場から伝えるスペシャル回も放送しました。お昼どきの放送が定着している「うまいッ！」では、会社全体での目標でもあるSDGsに取り組み、年度内で2回の特集を放送しました。BSプレミアム・BS4K「イッピン」は、下半期のみの放送となりましたが、各局とも連携した放送には変わらぬ評価が寄せられました。総合テレビ「あさイチ」の中継コーナー「おでかけLIVE」ではリモート体制を構えて中継を実施、全国各地の生き活きとした表情をお伝えしました。同じくあさイチの「シェア旅」では全国各地からの情報だけではなく、こんな時代だから注目されるテーマを柔軟に取り上げ、新しい切り口でお届けしました。首都圏地域放送の「ひるまえほっと」では、首都圏の視聴者に身近な話題をお届けし「#わたしの東京」などのキャンペーン企画にも注目が集まりました。新番組「明日をまもるナビ」では、わかりやすく防災を伝えるという難しいテーマに年間を通じて取り組み、放送からの動画コンテンツも含めて大きな反響を集めました。また下半期からは、新たな定時番組「ロコだけが知

っている」への参加が始まり、各支社の協力を得て放送を実施しました。

多くの特集番組も放送しました。「離島にポツンッ！ラストファミリー物語」はBSプレミアムでの放送が好評を得て総合テレビにも展開し、新年度に定時番組に昇格することになりました。BS1「激変」では、沖縄の730運動や東京湾のゴミ埋立てなど、過去のアーカイブ映像を生かす新たな取り組みとして注目されました。BS1「大相撲どすこい研」、総合テレビ「ヒラメキ！地域発」、国際放送・BS1・BS4K「スピリチュアルエクスプローラーズ（日本語版はスピリチュアルジャパン）」、を継続して放送しました。

国際部

長引くコロナ禍に加え、激変する国際情勢と向き合いながら、幅広いジャンルの番組を制作しました。定時番組では、コロナをきっかけに新たなライフスタイルを模索する若者を追った「いいいじゅー！！」をBSプレミアムで立ち上げ、高評価を得たため、総合テレビでのウィークリー放送が決まりました。

NHKワールドの定時番組「Direct Talk」「Global Agenda」「Deeper Look from New York」では、ウクライナ情勢やアフガニスタンの人道危機など、喫緊の問題をリモートですばやく取材。日本語版を合わせて制作してBS1でも数多く放送しました。また、NHK Cosmopedia America（NCMA）と協力して、国際放送局のニューヨーク・スタジオを活用し、演出に工夫を加えました。

特集番組では、NHKスペシャル「9.11閉ざされた真相」をアメリカ同時多発テロから20年の日に放送し、国家が隠してきた事件の真実をタイムリーに伝えることができました。また、北京テレビと共同制作した「紫禁城 皇帝の知られざる花園」では、初公開された秘宝を8Kで撮影し、BSプレミアムやBS4Kにも番組を展開しました。そしてNHK Cosmopedia Europe（NCME）と組んで、BS1スペシャル「頂上対決ブレイキン」やBSプレミアム「最強の帝国・ローマ」など、ヨーロッパ発の特集番組を10本以上制作し、コロナ禍で減った本格的な海外ロケを増やしています。一方、人気番組の「白熱教室」は、EテレとBS1で新シリーズを放送しました。

さらに、BSプレミアムで「空旅中国」や「今夜は絵顔で眠りたい」、BS1で「突撃！ストリートシェフ」などの準レギュラー番組を数多く放送した他、「まいにち養

老先生ときどきまる」をビデオ販売し、人気を博しました。

その他、国際共同制作を支援するフォーラム「Tokyo DOCS」や、サンダンス・NHK国際映像作家賞の事務局を担うなど、幅広い活動を行いました。

ドラマ部

総合テレビにおいては、新型コロナ対策を制作現場で徹底して行いつつ、多数のドラマを制作しました。土曜ドラマでは、大学を舞台にコメディタッチで日本社会を描いた風刺劇「今ここにある危機とぼくの好感度について」、ひきこもり経験者が生徒に寄り添う教師となる「ひきこもり先生」、さらに追加発注でサスペンスタッチの弁護士ドラマ「正義の天秤」の計3シリーズを制作。73分×2本のスペシャルでは地方競馬を舞台にした「風に向かって駆けぬけろ」を制作しました。「今ここにある危機とぼくの好感度について」は、独創的な内容が評価され、令和3年度芸術祭テレビドラマ部門の大賞を受賞しました。ドラマ10は女性週刊誌を舞台にした女性バディドラマ「半径5メートル」や生きづらさを抱える人々の群像劇「群青領域」の2シリーズを制作しました。土曜時代ドラマはBS時代劇の再編集枠として、「立花登青春手控え」シリーズや「明治開化新十郎探偵帖」、「大江戸もののけ物語」など多様なラインナップで、新作と変わらず広く見られました。特集ドラマでは、正月時代劇「幕末相棒伝」を制作。坂本龍馬と土方歳三のバディが京都で起きた事件を解決するエンターテイメント時代劇として、好評を博しました。毎年、脚本公募のグランプリをドラマ化する創作テレビドラマ大賞の受賞作「家出娘」は、母を自死で失った少女と叔母の心の交流を描きました。

BSプレミアムにおいては、BS時代劇「小吉の女房2」「大富豪同心2」「剣樹抄」そして昨年度コロナ禍で中断した「雲霧仁左衛門5」の撮影を再開し、計4シリーズを制作しました。また特集ドラマとして松本清張原作の「混声の森」（前後編）や、名作のリメイク「二十四の瞳」、8Kドラマ「海の見える理髪店」といった見ごたえのある単発ドラマを制作、バラエティーに富んだ内容で視聴者から反響を得ました。

「青天を衝け 大河ドラマ館」は、埼玉県深谷市と東京都北区でオープンした2館のリニューアルを行い、多数の来客者を得ました。「鎌倉殿の13人 大河ドラマ館」は伊豆の国市で1月、鎌倉市で3月にオープンし、好調な出足となりました。

「ワープステーション江戸」はコロナ対策を行いつつ、NHK関連のBS時代劇や

特集ドラマなど多数の撮影を実地。また映画や民放、ミュージックビデオなど外部貸し出しも好調で、安定した業績となりました。

エンターテインメント部

定時番組では、総合テレビで「みんなのうた」「〇〇〇〇の演芸図鑑」「SONGS」を制作、Eテレでは「日本の話芸」「ムジカ・ピッコリーノ」「Eダンスアカデミー」「わらたまドッカ〜ン」「沼にハマってきいてみた」「古典芸能への招待」「シュガー&シュガー」「ヒヤダ×体育のワンルーム☆ミュージック」を制作しました。BSプレミアムでは「新・BS日本のうた」「ザ少年倶楽部」「クラシック倶楽部」「プレミアムシアター」を制作しました。音声波ではクラシックからジャズ、ポピュラー、バラエティーと多様なジャンルで、ラジオファンのニーズに応える番組を継続して制作したほか「ディスカバー・クイーン」「GReeeeN HIDEのミドリの2重スリット」などの新規番組を制作しました。

特集番組では、「アニソン！プレミアム！」「SONGS OF TOKYO Fes」「おげんさんといっしょ」「The Covers Fes」のほか「ワルイコあつまれ」などを新たに開発し、2022年度につながる事業も生まれました。また「映画音楽はすばらしい！」「歌える！J-POPシリーズ」など展開の可能性が広がる大型特集番組を制作し好評を得ました。

4K8Kコンテンツの取り組みでは「The Covers」などのほか、過去映像にレストア技術を施すことで新たな創造価値を生んだ「洋楽倶楽部」「伝説のコンサート」シリーズも視聴者から大きな反響を受けました。また「みんなのうた60」プロジェクトではアンバサダーに井ノ原快彦さんを迎え放送開始60年を特集番組で紹介しました。名作誕生秘話や視聴者リクエストによるセレクション放送など、1年間にわたってアニバーサリーイヤーをアピールしました。

独自事業では、配信ライブコンテンツとして新機軸を打ち出した「TOKYO JAZZ 20th」オンラインイベント実施や、中国の大手配信業者への音楽コンテンツ提供業務などを展開しました。

以上のほか、「新・BS日本のうた」での開催局のローカル番組やイベントへの協力、「NHK紅白歌合戦」への演出協力などで、NHKグループの一員としての使命を果たす事業も担いました。

語版展開部

海外ドラマでは、BSプレミアムの韓国ドラマ「王女ピョンガン 月が浮かぶ川」、BS4K「大草原の小さな家」、総合テレビ「アンという名の少女」、Eテレ「ファースト・デイ わたしはハナ！」などの日本語吹き替え版を制作したほか、アニメではEテレで「おさるのジョージ」の日本語吹き替え版も制作しています。

海外ドキュメンタリーでは、BS1の「BS世界のドキュメンタリー」やEテレ「地球ドラマチック」の日本語版を、また、NHKワールド Japan の大型討論番組「グローバル・アジェンダ」をBS1で放送するためにその日本語版を制作し、コロナ禍にあって海外ロケが難しい中においても、海外の最新的话题を視聴者へ届けています。

映画関連では、BSプレミアム・BS4Kで放送するプレミアムシネマの日本語字幕に加え、3月に総合テレビで「“多様性”映画特集」と題して名作映画を放送するに際して、その日本語字幕を制作しました。

さらに「世界ふれあい街歩き」、「COOL JAPAN」の英語版を制作してNHK番組の海外発信に貢献したほか、NHKの多岐にわたる番組の解説放送を約1,600本制作しています。

アニメ事業部

総合テレビでは、昨年新型コロナ禍で中断した「キングダム3」を制作・放送。40代以上の男性を中心に、幅広い層に視聴されました。

Eテレでは、「魔入りました！入間くん 第2シリーズ」に加え、こちらも半年延期された「不滅のあなたへ」を放送しました。世界に突然現れた不思議な存在が、人の関わりの中で次第に成長していく壮大なストーリーは、全世界配信でも視聴ランキングトップ10に入る支持を得ました。

Eテレ平日夕方は、長寿アニメ「忍たま乱太郎」「おじゃる丸」「わしも」、そして22年3月には長編「おじゃる丸25年スペシャル」「わしもスペシャル」を放送しました。

ベストセラー児童書が原作の「おしりたんてい」「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」「かいけつゾロリ」も新シリーズを放送。また新作では、動物たちが宇宙飛行士を目指す

「宇宙なんちゃらこてつくん」、骨付きチキンのキャラクターがダンスする一風変わったミニアニメ「チキップダンサーズ」も制作しました。

デジタルサービス事業部

Webサイト、データ放送、ハイブリッドキャスト、4K・8Kデータサービス、動画配信、VR・360度コンテンツ制作など幅広い業務に対応できる高い制作力を活かし、NHKのデジタル発信を支えました。

「NHKオンライントップページ」「NHK WORLD-JAPAN」「NHKドラマ」「NHK MUSIC」など、基幹サイトをはじめとしたNHKホームページの制作及びSNS発信を支えました。また放送連携事業では、「天才てれびくんhello」「沼にハマってきいてみた」「おやすみ日本 眠いいね!」「おしりたんてい」、連続テレビ小説「カムカムエブリバディ」、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」などのデータ放送・ハイブリッドキャスト等の開発・運用を実施しました。

2021年度最大の事業は、オリンピック・パラリンピックの東京大会および北京大会関連事業でした。「大会サイト」「競技サイト」「SNS配信」さらに東京大会の「聖火リレー」では、最先端の技術を駆使した大規模なシステムを構築し放送と両輪で伝えました。また、「みんなのメッセージ」「オンラインパブリックビューイング」など競技中継放送と連動した新しい演出も開発し、大きな反響を得ることができました。

また、NHKの放送同時配信サービス「NHKプラス」の運用監視業務も2年目となり、編責業務の従事時間が拡大するなど着実に役割を果たしています。

これらのNHK事業で培ったノウハウを活かして独自事業にも取り組んでいます。「NTT R&Dフォーラム」などNTTグループの事業も継続的に受託。さらに力を入れているのは地域放送局のイベントなどのデジタル展開の受託です。高松局、河内局、水戸局、横浜局などで各種イベントのライブ配信などを手掛けました。今後も積極的にデジタル技術を活用した施策を提案していきます。

(2) <イベント事業・ソフト制作>

イベント

「ロボコン」は「with コロナ」を余儀なくされた2020年度から、オンライン

イベントに積極的に取り組み、ルール策定の段階から、状況によってハイブリッド大会の選択肢を可能にする実施体制を整備してきました。「学生ロボコン」は、感染状況を鑑み無観客ながら2年ぶりにリアル大会を実施し、全国から14校が参加しました。続く「ABUロボコン 中国大会」は日本では無観客でリアル開催し、主催国中国およびアジア10か国とオンラインで結び、正式大会を実施することができました。対戦型ではなく、1チームずつの得点を記録することで順位を決めるという初の試みでしたが、各国の選手たちは精一杯のベストパフォーマンスを見せてくれ、大会は成功しました。

「高専ロボコン」は地区大会をオンライン、全国大会は観客を50%程度に制限したリアル大会で実施するという初めての大会となりました。競技テーマはこだわりの技術をロボットに込めて魅せる「超絶機構(すごロボ)」、チームごとにパフォーマンスを行い審査員が得点化する形式でした。フィギュアスケートや流鏝馬、ジャグリングなど見事なロボットパフォーマンスで2年ぶりとなった国技館開催は大変盛り上がりました。

「医療フォーラム」はオンライン実施2年目となり、ライブ配信ならではの双方向性を生かし、質問や意見を受け付けるスタイルで、病床にいる当事者や全国からの観覧で好評を博しました。テーマは「がん」「認知症」「人生100年時代の長寿社会」「心臓弁膜症」で合計7回開催しました。

26回目となった「新時代のエネルギーを考えるシンポジウム」はハイブリッドでの実施となり、東京国際フォーラムへの来場者250人余りだったものの、リアルタイム配信・アーカイブ配信合わせて約3,000人が視聴、リアルのみの実施年に比べ3倍の視聴人数となりました。環境課題に関しては「ニッポンの未来フォーラム」と題し「カーボンニュートラルに対して、“今”と“未来”にできることを考える」新しいフォーラムを立ち上げました。

東京大学のオンラインフォーラム「Tokyo Forum 2021 Online」は、昨年度に続き受託し、12月2、3日に実施。北米、欧州、アジアなど世界各国から40人を超える論者が参加、基調講演や8つのセッションをリアルタイムで配信するスタイルを構築しました。

2020年度から実施が延期となった「国民文化祭みやぎ」「全国豊かな海づくり大会 宮城大会」と、2021年度実施予定の「国民文化祭わかやま」の大型

事業が全て本年度に開催されました。例年は開催地会場にご臨席される天皇皇后両陛下が、全て「オンライン行幸啓」でのご参加となり、リアルタイムで御所や皇居と各自治体会場をつなぎました。NHKテクノロジーとの協業による成功で、自治体や関係各所から高い評価を得ることができ、NHKグループのブランド価値向上に貢献しました。

人気の2.5次元ミュージカル「ミュージカル 忍たま乱太郎」は、4月に東京・11弾再演を開幕できたものの、最終日と5月大阪公演は、緊急事態宣言を受け中止となりました。10月の12弾東京公演、大阪公演および12月の学園祭・大阪府尼崎市公演と東京公演は全公演を上演することができました。

東京2020オリンピック・パラリンピックのパブリックビューイング会場として作られた「NHK渋谷フレンドシップシアター」でのライブ・ビューイングは、コロナ禍で中止となりましたが、関係者向けに行われた内覧会では、その臨場感あふれる大画面映像を確認することができました。また、パブリックビューイングは実施できませんでしたが、新型コロナのワクチンの「渋谷区集団接種会場」となり、接種に訪れた人々に8Kの魅力伝えることに貢献しました。

3年連続で受託しました「NTT R&Dフォーラム」は、社会状況を反映しオンラインのみでの開催となりました。全ての講演とセッションを映像化。これまで以上に多様な映像表現を用いることで、フォーラムのメッセージをよりわかりやすく伝えることができました。

8Kを使った新しい社会貢献の取り組みとして、「8K文化財・展示&ワークショップ」を受託、実施しました。今回は遮光器土偶（重要文化財）がテーマ。8KやARといった最新の映像手法を駆使した展示とワークショップを行いました。会場は遮光器土偶が出土した青森県つがる市。地元の方々に馴染みの深い遮光器土偶を通じて、郷土の文化を再発見する機会となり、好評を博しました。

SDGsを若い世代で考えるイベントとして、法政大学ではセミナー「SDGs インタラクティブ」を実施。環境の持続可能性についてディスカッションしました。また、「高校生と考える未来へのアクション」（主催：NHK）では、海と陸の豊かさについて考える機会となりました。

展示事業

ドバイで開催されました「ドバイ国際博覧会」の日本館では、展示に使われた映像の一部を制作しました。展示は、世界がグローバルにつながる現代における、私たちの今と課題を見つめる内容で、世界各国の人々にご覧いただきました。

また、世界遺産に登録された「平泉の文化遺産」を紹介するガイダンスセンターで上映する展示映像を制作しました。施設は2021年秋にオープン。平泉の歴史や魅力をわかりやすく来場者に紹介しています。

NHKプラスクロスでは、「8Kがいざなう実世界展」「テクノロジーでめぐる異世界展」2期分を連続で企画・制作しました。「実世界展」では、＜8Kの目で世界を見直す＞をコンセプトに企画。「異世界展」では＜想像力とテクノロジーの出会い＞をテーマに、放送技術の可能性を拓きました。

その他、国立科学博物館での特別展での展示映像や、福井県立恐竜博物館の特別展で展示する恐竜CG映像、四国村の常設展用展示映像をそれぞれ制作。各会場では、来場者の理解促進の一助となりました。

映像ソフト制作

昨年度に続き、SDやHDの映像素材を4K並みの高画質映像に変換するビデオレストア事業では、NHKが過去に放送したドラマやコンサート等を数多く高画質化しました。2021年度は、「プロジェクトX」などのドキュメンタリー番組も好評でした。

内閣府の国際広報キャンペーン用映像制作では、日本独自の概念「IKIGAI」などを海外に情報発信するための動画を制作しました。

また、三重県がすすめる「やさしいDX」について、2050年に向けたデジタル社会の未来像を、県民などへ伝えるための映像制作を行い、イメージしにくい未来をビジュアルに描きました。

8K技術を使い、スマホやタブレット上で映像を自由自在に拡大・縮小・スクロールして視聴できる「8Kオペラグラス」では、ミュージカルの配信や医療分野での応用を検証しました。

映像教材

2021年度から映像教材の制作業務を担当することとなりました。各教科書会社からの依頼で、高等学校・地理、高等学校・歴史、高等学校・家庭科などの教科で、映像教材を提供したほか、経済産業省からの受託で、「STEAM」教育用のコンテンツ制作を行い、教科にとらわれない総合的な学習用の教材に挑戦しました。

(3) <地域での番組制作、事業>

近畿総支社・四国支社

全国放送番組のうち、趣味・実用番組は、「きょうの料理」、「すてきにハンドメイド」、「まる得マガジン」、四国支社は「夏井いつきのよみ旅！」などを制作し、文化・情報番組は「歴史探偵」、「こころの時代」、芸能番組は「バラエティー生活笑百科」、「にっぽんの芸能」、「日本の話芸」「古典芸能への招待」、また国際放送番組では「Core Kyoto」、「Train Cruise」「SDGS challengers」などを制作しました。

さらに特集番組として近畿総支社では、「元旦特集・超体感！ニッポンはじまりの旅・奈良やまと路 神秘と絶景の参詣道をゆく」、「鉄オタ選手権 大阪メトロ」、2022年の定時番組化を目指した「探検ファクトリー」のパイロット版を制作しました。四国支社では、夏期特集として「怖い俳句酒場 スナック伊月」を制作しました。8Kへの取り組みでは、宝塚歌劇全3組の公演を収録。前年度収録分とあわせて「宝塚スペシャルシート」として放送したほか、「新春・宝塚スペシャル」を初めて8Kでも制作、2Kとあわせて放送しました。

さらに、大阪拠点放送局機能強化の一環として、金曜午後を生放送で編成するBKフライデーの一翼を担う「京コトはじめ」「ニュースきん5時 KINGOJIN」の制作を行いました。

地域放送番組では、近畿総支社では、「ぐるっと関西おひるまえ」「ええトコ」、関西向けの新たな放送サービス・視聴層開拓を目指して開発した「関西“愛”認定バラエティー～ちゃうんちゃう？」「中川工場」のほか、特集番組「巨大魚&幻の魚を追え 身近な秘境に潜む魚を大調査！」を制作しました。四国支社は、毎週土曜朝のナマ情報番組「ギュッと！四国」、金曜夜間では、看板番組として定着した「軽四キャンピングカーがゆく」「前園真聖のしこく絶景旅」を制作したほか、特集番組と

して、95歳の料理研究家を追ったドキュメンタリー「伝統食の生き字引 95歳・松崎淳子の世界」、2022年の定時化を目指した旅番組「ノルノルミシル」のパイロット版を制作しました。

NHKからの受託事業は、新型コロナ感染症の影響が残り、公開番組やイベントが一部中止、縮小となりました。下期にかけて、厳格な感染予防対策を行いながら少しずつリアル開催しました。年度末には、大阪市立科学館の最新鋭プラネタリウムと、岡山、福島の天文台を結んだ全天周星空生中継イベント、「星空ライブ」、BKメディア展開部と、過去の朝ドラを題材に新たな視聴者リレーションのあり方を模索した「おかえり糸子！カーネーションファンミーティング」などを実施しました。

四国支社では、アニメ「かなしきデブ猫ちゃん」放送開始に合わせ、松山局で「かなしきデブ猫ちゃん ひみつの博覧会」を実施、途中まん延防止等重点措置による休止もありましたが、11月20日～2月20日までのロングラン展示となりました。3月には「アオアシ」放送前イベント、「アオアシ・オンラインレッスン」を開催。東京のゲストとオンラインで結び、松山市内の小・中学生にサッカーレッスンを実施しました。

自主事業は万博協会等の動きが期待していたほどなく、苦しい一年となりました。そんな中、和歌山県より「令和3年度生物多様性保全に係る人材育成事業 うちネイチャー・カリキュラム：生物多様性の理解を助ける動画教材作成・活用事業」を受託。NHKアーカイブス映像も活用した映像教材で、2022年度から和歌山県の小・中学校で活用されることとなりました。また「文楽を中心とする古典芸能振興事業」や、大阪・関西万博会場の整備状況をドローンで記録する事業は、継続して受託・実施しました。

展覧会事業は、前半に新型コロナ感染症の影響を受け、苦戦が続きましたが、2月に開館した大阪中之島美術館「超コレクション展」は、関西地区久々の明るい話題となり、動員も12万人を超え、営業面でも大きな成果を上げました。番組では「日曜美術館」のほか、管中特番「大探検！ 誕生 大阪中之島美術館～魅惑のアート巡り～」等と連携、動員数増に結びつきました。

NHK大阪ホールは開館20周年を迎え、安心・安全の決意も新たに、管理・運営に努めました。NHK公開番組、外貸し公演とも回復傾向にあり、NHKと視聴

者を結ぶ大切な接点として、引き続き万全を期して運営を行います。

中部支社

受託番組は、全国放送として「釣りびと万歳」、「うまいッ!」、「趣味の園芸」、「あさイチ・おでかけ LIVE」、「歴史秘話ヒストリア」等を制作、また、特集番組としてショパン国際ピアノコンクールを取材し、クローズアップ現代やBSプレミアムの長編ドキュメンタリーにマルチ展開しました。地域放送としては昼前情報番組「さらさらサラダ」や音楽ライブ番組「U t a - T u b e」、報道番組の「おはよう日本・土曜ローカル～ウィークエンド中部」や夕方ニュース番組「まるっと!」特集レポート&企画中継のほか、「中部ネイチャーシリーズ」(4K制作)や「第19回全日本学生落語選手権策伝大賞」などを制作しました。地域局支援では、北陸3局向けに「北陸スペシャル・おもてなし北陸」、津局向けに「みえスペシャル 高専ロボコン2021」、長野局向けに「知るしん 躍動する大自然 北アルプス・氷河の旅」を制作しました。

受託事業では、名古屋放送会館公開イベントの「NHKパパママフェスティバル」・「Nスポ! NAGOYA 2022」に、企画段階から関わり実施しました。また、名古屋局・域内局からの受託で「のど自慢」サポート業務や「新BS日本のうた」などの公開番組運営を手掛けました。またデジタル部門では、名古屋拠点放送局や岐阜放送局のデジタルサービス制作業務、富山放送局の双方向データ放送改修、データ情報アーカイブス管理業務などを実施しました。

自主事業では、「Six Unlimited 全国コンサートツアー」、「第19回全日本学生落語選手権策伝大賞」、東根市「まなびあテラス」美術展、「九代 玉屋庄兵衛展」などのイベントを企画運営実施しました。デジタル部門では、「防災ほっとメール」や「地域映像アーカイブス」(図書館等公共施設)、「自治体等ホームページ保守管理業務」なども手掛けました。

中国支社

全国放送では、岡山・真備町の竹製品に込めた住民の思いを見つめた「イッピン」をはじめ、「うまいッ!」「釣りびと万歳」「あさイチ」などを制作しました。

地域放送では、お昼前の生活情報番組「ひるまえ直送便」で定期的にSDGsに取り組む人々や世界各地のグルメを紹介したほか、「ラウンドちゅうごく」などでは地域の課題や今を伝えました。特集番組では「ペットへの感謝状」「アイデア満載山陰山陽の鉄道」「山下健二郎のバイク旅」など受託、「アニメ聖地旅～たまゆら・竹原～」 「カープ県民大会議（ドラフト直前／開幕直前SP 計2本）などでは、SNSを活用した、多様なデジタル展開を行いました。

受託事業では、番組連動として「カープ県民大会議ドラフト直前SP サテライトスタジオ」を新規受託し、現場で集約したアンケートを番組に活用するなど制作と一体となって進めました。新たに支社間連携を行い、四国支社を窓口にして「かがわ絵顔プロジェクト」を受託、各支社の強みを生かした業務分担を行い、円滑に実施しました。また、自主事業では、「オークラミュージアム」「旧中島地区被爆遺構」の展示コンテンツの制作を手掛けました。

九州支社

全国放送番組では、定時番組の「うまいッ!」、「あさいチ」、「釣りびと万歳」を制作。地域放送番組では、定時の生活情報番組「はっけんTV」のほかに、来年度に向けた新規開発番組として、九州沖縄の海に生きる漁業関係者を応援する「ウオカツ!」や、九州沖縄の高校のユニークな部活を紹介する「キミだけ応援団」、毎回テーマを立てて九州沖縄のディープなスポットをめぐる紀行番組「ディープツアーズ」を制作しました。特集番組としては、コロナ禍や災害に苦しむ地域の生産者を応援する「食べて応援! しあわせの極上おせち」や、九州沖縄地域の動物園の動物たちを飼育員が撮影した映像で描いた「目撃!動物たちの決定的瞬間 ～飼育員は大奮闘」を制作しました。

受託事業では、「オリジナル朗読劇 白秋転生奇譚」を上演。全国からおよそ1,000人の観覧者がオンラインで参加し、双方向の演出を取り入れた舞台は高い満足度を得ました。舞台は公開収録され番組として後日放送、好評を得ました。ラジオの公開生放送に観客がオンラインで参加する番組「六本松サテライト」「The Covers' Fes. in 福岡県北九州市」などの運営を行いました。独自事業では、長崎県の伝統陶磁器「波佐見焼」の産地で進む地域内循環の取り組みを映像化しました。また、福岡県主催のコンペでは「糸島地域歴史・文化情報発信事業」を受託し、SNS等で発

信しました。

東北支社

東日本大震災から11年、俳優・篠山輝信さんが被災地を巡る“アッキー旅”では、2月下旬から3月上旬にかけ、管中トーク番組「大好き東北♡定禅寺しゃべり亭」出演を皮切りに、被災地でのトークイベント、地域ニュース企画、旅ブログ、BSプレミアム特番「バスで！列車で！篠山輝信×震災11年の東北旅」、東北管中特番「東北限定 ぜんぶ見せます！アッキーが巡る復興の地2022」を展開しました。

全国放送では、BS8K特番「わくわく！生きもの大集合 よみがえる みやぎの海へ」や、総合「クローズアップ現代～新たな支援 災害ケースマネジメント」など、10年余り経過した被災地と人々を見つめる多様な番組を制作しました。

地域放送では、管中トーク番組「大好き東北♡定禅寺しゃべり亭」、昼前情報番組「もりすた！」の他、東京オリパラ関連特番「みちのく頂をめざして」や「連続テレビ小説『おかえりモネ』ファン感謝祭」、更に「限界集落 住んでみた」などを制作しました。

イベント受託事業では、「連続テレビ小説『おかえりモネ』ファン感謝祭 in 気仙沼」(気仙沼市9月23日)、「土曜スタジオパーク in 宮城『おかえりモネ』特集」(登米市6月19日)、『大好き♡東北 定禅寺しゃべり亭』と連動した「出張版コロッケオンステージ」(松島町1月22日)、篠山輝信さん出演回でも連動で、放送翌日に震災関連イベント「アッキー×ヤナギー スペシャルトークショー」(石巻市2月27日)を実施しました。8月にNHK交響楽団東北地方4公演を計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で2公演(盛岡市とむつ市)が中止になりました。

北海道支社

全国放送番組では、「さわやか自然百景」「うまいっ！」「あさいち・おでかけLIVE」「釣りびと万歳」「ロコだけが知っている」などの定時番組を制作したほか、昆虫記のファールさながらに身近な自然を見つめ、草花や虫をテーマにした本を作ってきた作家・奥山久さん(83)を主人公に、息子・孫と3人で、北海道・沖縄の

自然を訪ねる様子を追いかけ、学ぶことの意味、家族のあり方、生きる目的などを考える「フェアブルのバトン 親と子の博物誌」をBS1スペシャルで放送しました。また国際放送の「Wild Hokkaido!」では、番組ナビゲーターがさまざまなアクティビティに挑戦し、北海道の雄大な自然の魅力を美しい映像とともにお伝えしました。

地域放送では、道内179市町村の代表がオンラインで一堂に集結し、それぞれの地域の魅力を語り合う「北海道スタジアム」を生放送で制作しました。番組本編で紹介しきれなかった話題については、関連番組である『道スタ外伝～179の魅力お届けします～』で深掘りしてお伝えしました。また、プロ野球のドラフト会議に合わせて「プロ野球ドラフト会議直前！ みんなのファイターズ道民大会議」を制作し、視聴者のみなさんにはSNSで番組に参加をしていただきました。このほか、昼前情報番組「ひるナマ！北海道」、報道番組「おはよう北海道・土曜プラス」、610「ほっとニュース北海道」などの制作を担当しました。

受託事業では、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から多くの公開番組やイベントが中止となりましたが、『青天を衝け』オンラインSPトークイベント』をオンラインで実施したほか、3月には十分な感染防止対策をとった上で、地域貢献イベントとして『葛谷好位置プロデュース 札幌交響楽団×NHK 北海道 ミュージック・イン・ザ・ベストポジション』を開催しました。

（４）＜映像ソフト販売＞

映像ソフト商品市場は依然厳しい状況でしたが、2021年度は「世界は欲しいモノにあふれてる」「連続テレビ小説おかえりモネ」「岸辺露伴は動かない」「悲熊」「古見さんは、コミュ症です。」など、想定を超えるヒット作に恵まれ、前年度を上回る成果を挙げることができました。

他にドラマでは大河ドラマ「麒麟がくる」「青天を衝け」、連続テレビ小説「おちょやん」を発売しました。その他ドラマでは「一億円のさようなら」「ノースライト」「悲熊」「やっぱりおいしい刑事2」「いいね！光源氏くん2」「カンパニー 逆転のスワン」「ライオンのおやつ」、また通販専売商品として「少年寅次郎SP」「ライジング若冲 天才かく覚醒せり」「京都人の密かな愉しみ Blue 休業中 燃える秋」などを発売しました。

NHKエデュケーショナルの協力により、「おかあさんといっしょ」では「最新ソングブッ

ク ブー！ スカ・パーティー！」 「からだ☆ダンダン～たいそうと あそびうたで 元気いっぱい！」 「ファミリーコンサート まってたんだよ キミのこと」 「スタジオライブコレクション」、 「いないいないばあっ！」 では「アニメだいすき！」 「テトテトテトテ」 が好調でした。

ドキュメンタリー関連では、「プロフェッショナル仕事の流儀 第18期」 「植物に学ぶ生存戦略」のほか、「絶対行きたくなる！ ニッポン不滅の名城」 「国宝へようこそ」 「千三百年祈り続ける お水取り・東大寺修二会」 「名品の来歴 幻の刀 膝丸が語る1000年」、そして「独占告白 渡辺恒雄 戦後政治はこうして作られた 平成編」などをリリースしています。

NHKのアーカイブ映像からは「山内恵介 プレイバック P a r t 2」 「瑠璃の舞台 杉本博司 オペラ座への挑戦」 「小椋佳 ファーストコンサート1976」 「タイガース・メモリアル・クラブ・バンド BEST OF NHK」などのアーティスト系を商品化。また「凶鑑MOVIE」は「危険生物 新訂版」ほか全4商品を新たにラインナップに加えました。また、「あすか」 「純ちゃんの応援歌」 「テンペスト」 「ROMES／空港防御システム」 「美女と男子」 「純と愛」 「火の魚」 「新宿鮫」 「精霊の守り人」などを通販限定価格で販売したほか、「馬医」 「リトル・チャロ」などを新価格版として再発売し好評を得ました。

新規発行ディスク数は、トータルで517ディスク（昨年628ディスク）となりました。

（5）＜番組提供＞

放送事業者への番組提供

＜チャンネル銀河＞＜AXNミステリー＞＜LaLaTV＞＜時代劇専門チャンネル＞＜BS12＞＜歌謡ポップスチャンネル＞ など32チャンネルに対し、大河ドラマや連続テレビ小説、アニメ、また、韓国ドラマや欧米ミステリードラマなど、合計187タイトルを提供しました。ケーブルテレビ事業者には、42局へ連続テレビ小説「あさが来た」「ゲゲゲの女房」など90タイトルを提供しました。

全国5か所で地域のケーブルテレビ局向けに、経営や番組制作などのセミナーを実施し、合計約300人が受講しました。

VOD事業者への番組提供

＜AMAZONプライム＞＜U-NEXT＞＜Netflix＞＜ドコモ・アニメストア＞＜Hulu＞＜FOD＞など、全29事業者にアニメ番組や幼児番組、韓

国ドラマなど海外番組含め299タイトルを提供しました。

大学への番組提供（アーカイブス事業）

コロナ禍の中、ニーズが高まるオンライン授業などに活用するため、NHKで放送したドキュメンタリー番組を大学に提供する事業です。大学が配信してオンライン授業で活用するために、NEPが必要な権利処理を行った番組を2021年度から4つの大学（学生数合計11万3,500人）に提供。2022年4月1日に合計201番組を配信できるようコンテンツの拡充を進めました。今後、さらに提供する大学等を増やししながら新しい学びの機会を提供し、若い世代にNHKの良質な番組に触れてもらう機会を増やします。

素材提供事業

前年度のコロナ禍による東京オリンピック、パラリンピックの延期により、今年度内に夏季と冬季のオリパラが開催された結果、スポーツ関連の需要がその開催時期に集中的に高まりました。

11月にはNHKからの指示により「公益性の高い団体が行う非営利事業での素材使用料の割引」を試験的に開始(当面2022年9月まで)しました。素材提供に関わる料金のハードルを下げたことによって、地域や社会に貢献することが目的です。

また、(福)NHK厚生文化事業団、(公財)放送番組センター、(福)聴力障害者情報文化センターの3公益団体への番組提供も例年通り行っており、番組の利活用にも貢献しています。

(6) <キャラクタービジネス>

ドラマ展開では、大河ドラマ「青天を衝け」と連続テレビ小説「おかえりモネ」、また2022年1月放送開始の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の人气が高く、ドラマガイドなどの関連書籍を中心に売上を伸ばしました。「鎌倉殿の13人」の書籍は全8種が発行され、総発行部数は増刷分含めて47万8千部となり、さらに部数を伸ば

し続けています。

2021年4月から第2シリーズの放送が始まったアニメ「魔入りました！入間くん」の展開では、レジャー施設やカフェとのコラボレーション、期間限定ショップ、店頭くじなどを実施し、子どもから大人まで幅広い年齢層をファンとして獲得することが出来ました。また、2020年に立ち上げたSNSでは声優を起用したメッセージの公開やフォロワー&リツイートキャンペーンなどおこない、フォロワー数を5.3万人に増やしました。

アニメ「おさるのジョージ」は今期、絵本原作80周年を打ち出し、百貨店や量販店など80か所で販売フェアをおこないました。特に番組視聴者層ではない大人をターゲットとした商品を発売し新たなファン層を獲得、展開を広げました。3月には東京でカフェをオープンし、平日でも入店待ちの列ができる状態が続いています。

幼児番組「いないいないばあっ！」は今期、放送開始25周年を打ち出し、大手玩具専門店130店舗や量販店160店舗、ベビー子どもファッションチェーン300店舗などでの販売フェアを実施し、売り場を広げました。また25周年を機にSNSでの情報発信を強化し、3.8万人のフォロワー数を更新中。さらに公式グッズポータルサイトを立ち上げ、総合的な情報発信の告知媒体として利用者が増えています。

(7) <権利ビジネス>

海外の番組については、欧米ドラマ「アンという名の少女第2、第3シーズン」「蒼ざめた馬」「名探偵ポワロ」「刑事コロンボ」「ゲームシェイカーズ シーズン3」「ファースト・デイ」、韓国ドラマ「ヘチ」「ファラン」「王女ピョンガン」などがNHKで放送されました。また、中国ドラマ「大宋宮詞」、トルコドラマ「オスマン帝国外伝」「新・オスマン帝国外伝 キョセム」が人気コンテンツとして配信・放送で展開されました。ドキュメンタリーでは、「デイ・ゼロ 地球から水がなくなる日」「グラウンド・ゼロからの脱出 9.11 生と死を分けたもの」「アフガニスタンの亡霊」「食品偽装大陸ヨーロッパ」「地球まるごと観測！ 生きものたちの2か月」「メルケルが残したもの -16年間の足跡-」「プーチン政権と闘う女性たち」などを放送しました。ライフスタイルでは、「ソーイング・ビー」や「レイチェル・クー」シリー

ズが変わらず好調で、「レイチェル・クーのキッチンノート：スウェーデン編」「レイチェル・クーのチョコレート」を放送しました。クラシック音楽番組は、バレエ「雪の女王」「冬の旅」、歌劇「オテロ」、コンサート「MET 9. 11コンサート ヴェルディ“レクイエム”」、ドキュメンタリー「ワーグナー信仰」など多様な番組を購入し、NHKで放送され好評でした。

海外番組販売では、アニメが人気を集め「魔入りました！入間くん」「不滅のあなたへ」「ふしぎの海のナディア4K版」などが世界各国に販売されました。ドラマでは、連続テレビ小説「エール」「おちょやん」「おかえりモネ」、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」などが販売されました。他にも連続ドラマ「オリバーな犬、(Gosh!!) このヤロウ」「岸辺露伴は動かない」「恋せぬふたり」など多彩なテーマの作品が注目を集めました。ドキュメンタリーでは、「さようなら全てのエヴァンゲリオン～庵野秀明の1214日～」「常田大希 Tokyo Chaotic」が全世界で配信されたほか、「ワイルドライフ」「フランケンシュタインの誘惑」「コズミックフロント」などの自然・科学番組も好評でした。

(8) <NOD事業>

NHK オンデマンド受託事業

NHK オンデマンド配信番組の権利処理・権料支払いから原盤・メタデータ制作、配信、編成、広報までの一連の業務を円滑に実施すると共に、各種無料配信や即日配信など多様な配信サービスをサポートしました。

年度当初はNODが配信しないオリンピックが夏冬2回開催されるため通常番組も減り、会員数が減少するのではという懸念もありましたが、始まってみるとお客様の視聴は年間を通じて非常に好調でした。特に、朝ドラ「おかえりモネ」「カムカムエヴリバディ」、大河ドラマ「青天を衝け」「鎌倉殿の13人」の初回無料キャンペーン効果もあり有料会員数、視聴数、売り上げとも過去最高を更新し、右肩上がりの急成長を続けています。

配信事業者向けの3号業務(B to B提供)も各社の需要が急増しておりFOD、Netflixなどへの番組提供のための権利処理と原盤制作を実施しました。

またデジタルセンターの依頼により、「NHKプラス」の原盤制作、TVer提供番組の原盤制作も行いました。

(9) <受託映像国際放送等>

海外現地法人

当社は、NHKから欧米における映像国際放送及び番組制作支援業務を受託しており、これら業務をNHKの関連団体であるNHK Cosmopedia America (NCMA)とNHK Cosmopedia Europe (NCME)に再委託して行っています。

映像国際放送は、北米地域ではNCMAが放送する24時間日本語有料チャンネル「TV JAPAN」、欧州・北アフリカ・中東地域約60カ国においては、同じくNCMEが放送・配信する24時間日本語有料チャンネル「JSTV」を通じて行っています。「TV JAPAN」及び「JSTV」は、NHK番組を中心に民放番組や邦画も含めて編成されており、そのうち1日平均5時間をNHKから受託した「邦人向け協会衛星国際放送」として放送しています。

番組制作支援業務としては、NCMAには、活躍を続けるエンジェルス・大谷選手の試合などのMLB中継制作に加え、BS1や国際放送NHKワールドJAPANの定時・特集番組の制作支援を委託しました。また、NHK国際放送局NYスタジオからのNHKワールドJAPAN「NEWSLINE」の制作・送出業務やスタジオ運用管理業務も委託しました。このように現地にNCMAという拠点を持つ強みを生かしてNHK番組の制作を幅広く支えました。

NCMEにもNHK番組制作支援及びコーディネート業務を委託し、BS1スペシャル「頂上対決ブレイキン」やBSプレミアム「最強の帝国・ローマ」のほか、NHKワールドJAPANの多岐に渡るコンテンツ制作支援を行いました。

さらに、タイにおいても当社が出資するNippon Production Service (NPS)を通じて、NHK国際放送の取材・制作支援や現地向けNHK番組販売などの分野で業務を推進しました。

(10) <業務改革への取り組み>

業務改革推進室

業務改革推進室は、社員の創造性を最大限発揮するために自社のあらゆる仕組みをゼロベースで見直すことを基本方針として掲げ、社長直轄のプロジェクトとして発足しました。

業務改革推進室を事務局とし、各部署から兼務として選任した約30名の社員が下記4つの分科会で新システム導入を推進しました。

1. 会計システム：ERPシステムの導入により適切な経理処理で透明性の高い会計を実現し、外部監査の対応や内部統制を強化します。
2. 管 理 会 計：新システムの稼働に合わせ、適切な損益管理の実施と経営のスピードアップに資する新しい管理指標の導入を決定しシステム化を進めています。
3. 著 作 権：複数の部署で異なる著作権業務システムを使用していましたが、新システムでは統合し、業務の標準化・効率化を実現します。
4. 事 業 管 理：すべての部門が関わる発注・稟議・契約等の業務プロセスの見直しおよび新システムへの移行と紙ベースの社内申請のシステム化を進めています。

(11) <業務支援>

アーカイブス事業

NHKの放送番組を映像・音声素材、データとともに登録・保存する業務、また保存されているコンテンツの活用に関わる業務を行っています。

東京オリンピック・パラリンピックでは、五輪で初めて大量の4K映像を保存し、短期間でメタデータを整備。2K映像は競技の2日後にはユーザーに提供しました。NHKアーカイブスに装備された「AI顔認識システム」は、東京オリンピック・北京オリンピックを目標に、スポーツ選手の顔写真を覚え込ませる効率的な作業で、メタ自動入力の精度向上に貢献しました。2012年に始まったテープのファイル化が完了。デジタル化により、内容が確認できる参照用動画・迅速な提供など、ユーザーフレンドリーなデータベース構築が可能になりました。

アーカイブス未保存の番組テープを広く探し出し保存化する番組発掘業務では、アニメ「マルコポーロの冒険」全43話の完全発掘や、古典芸能（歌舞伎）・教養・

科学番組など、テレビを8000本、FMのラジオドラマを1800本発掘。一般視聴者からの大量提供が目立ちました。

「番組公開ライブラリー」施設での番組公開、公募により選ばれた大学研究者に保存番組を閲覧利用していただく「学術利用トライアル」運営も、コロナ禍で休館や閲覧中止の時期はありましたが、継続して進めています。

アーカイブスに保存された過去の膨大な番組や映像素材を活用した番組制作も行っています。「BSプレミアムカフェ」(BSプレミアム)・「あの日あのときあの番組」(GTV)・「ニッポンの廃線100」などです。また16ミリフィルムを高画質化してBS4Kで放送する「よみがえる新日本紀行」も継続しています。さらにSD画質のビデオ番組をNEPレストアシステムで4K化した番組として、「NHK特集」名作選、「ふたりのビッグショー」、「映像の世紀プレミアム」、「世界遺産 時を刻む」、「街道をゆく」を放送。4K放送の可能性を広げるとともに、NHKアーカイブスの存在感を示しました。

著作権・権料支払業務

NHK知財センター著作権・契約部との連携のもと、各種事業展開に関わる権利処理についての情報集約、管理、相談への対応および映像コンテンツ権利処理機構(aRma)、JASRACなどの権利者団体等との調整を行い、円滑な事業展開を支援しました。また、ビデオグラム、NOD・VOD、CS・BS、CATV、航空機内上映への提供等番組二次展開に関わる権利者への権料支払業務、NHKからの制作受託番組の放送料支払いの審査業務、商標出願管理業務など、権利関係業務に幅広く対応しました。また、知財センター著作権・契約部からの委託により、インターネットに無断で投稿された動画の削除を当該サイト運営者に依頼するなど番組の不正利用対応を行い、さらに同センターから国際契約作成業務を受託しました。

この他、NHK関連事業局からの委託により、一般事業者へのNHK番組のまるごと提供に関する窓口対応、権利処理、納品業務を行いました。(新型コロナウイルスによる緊急事態宣言中は受付時間短縮を実施)

権利確保サポート業務

NHK知財センター著作権・契約部からの委託により、「プロフェッショナル 仕

事の流儀」などの定時番組、大河ドラマ「青天を衝け」「鎌倉殿の13人」、連続テレビ小説「おかえりモネ」「カムカムエヴリバディ」などのドラマ、「アウシュビッツ」「シリーズ廃炉への道」などのNHKスペシャルについて、制作部門と連携して権利者と交渉し、放送及び配信、海外発信などの権利を確保し、併せて権利情報のデータ作成も行いました。同じく著作権・契約部から「常時同時配信（NHKプラス）サポート業務」として制作現場からの権利処理に関する相談窓口業務を受託し、電話とメールで対応しました。

新たな業務として、一部の学校放送番組について、再放送や展開のための権利情報整備業務をNHK制作局から受託しました。また、2022年度から始まるNHKの新サービス「NHKラーニング」で配信するコンテンツの権利処理業務をNHK制作局から、さらにNHKの佐賀放送局から開局80周年関連の過去番組（ドラマ）の再放送の権利処理業務を受託しました。

独自事業としては、放送番組国際交流センター（JAMCO）よりNHKや民放番組の海外への提供のための権利処理業務を、また（一財）NHKインターナショナルより「ざわざわ森のがんこちゃん」の海外無償提供のための権利処理業務を受託しました。

（12）＜新規事業等への取り組み＞

イノベーション戦略室

イノベーション戦略室では、新規事業の開拓を担い、事業開発とDX推進に取り組みました。

NHKコンテンツの外部提供事業として昨年開発した「オンライン授業用番組ライブラリー」は、4大学で利用が始まりました。

先端技術を活用した主な取り組みとしては、超高解像度自動撮影システム（MoCoSS）による新美術体験展示手法を開発し、美術館向けに制作を請け負いました。

また、総務省実証実験にも参加し、ローカル5Gによるケーブルレスステージ演出手法の開発を行ないました。

さらに、ユニバーサルデザインサービス事業として、AI技術を使った手話動画の

実用化に向けた開発に着手しました。

グループ会社のシナジーを活かした新規サービス開発としては、顧客体験を提供する新しいECサイト「NHKグループモール」の基盤を構築しました。

(13) <リスクマネジメント、コンプライアンス、情報セキュリティへの取組み>

リスクマネジメント強化及びコンプライアンス推進のため「リスクマネジメント委員会」をWeb会議方式で計3回開催し、2021年度の活動方針や「内部統制の整備状況」、「リスク点検活動」についての承認等を行いました。また、各部門で作成している「業務プロセス図」から抽出したリスクについて、支社を含む全部門とのレビュー面談をWebで行い、必要に応じて修正等を助言しました。

「コンプライアンス推進強化月間」には、全社員向けに個人情報保護や在宅勤務をテーマに「情報セキュリティ研修」をWebで実施し、多くの社員が参加し、情報や知識を共有しました。また各部門において様々なテーマで研修会等を開催したほか、リスクマネジメント委員会メンバーを対象にした勉強会も実施しました。

情報セキュリティへの取組みとしては、4月に情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）の定期維持審査を受け、認証の継続が認められました。また、可搬型記録媒体の管理状況について全部門を対象に調査を行いました。

2022年4月に施行される改正個人情報保護法に対応するため、関係する規程類とプライバシーポリシーを改定し、社員への教育等、必要な活動を開始しました。

内部監査部門は、8部門の監査を行いました。監査結果はその都度社長に報告したうえで監査役に手交するとともに、常勤役員会にも報告し、取締役会で上期総括報告と年間総括報告を行いました。

(14) <法務・適正取引、顧客対応、DX推進への取組み>

法務・審査部門では、契約関連稟議は年々増加傾向にあり、対応件数はさらに増加しましたが（第33期では6,500件弱）、精度の高い審査に努めました。

個別には、全社的に「下請法」と「業務委託の適正性の確保」の遵守のための啓蒙・指導を行いました。稟議審査においては、起案者用と承認者用の「チェックポイント」を周知徹底したことにより、契約内容と合わせ発注書・見積書の確認など迅速かつ適

正な審査を可能とし、契約書の早期締結に繋がりました。また、NHK取引基準の契約更新に伴い契約書ひな型の的確な修正・更新を行うことなど、状況に応じた適正な契約締結を実現化し、リスク回避・利益確保を導きました。

さらに、海外の大手配信会社との契約締結をサポートするなど複雑で高度な契約交渉にも適応し、また地域の活性化と各地の魅力を国内外に発信するために契約相談上で本社と支社の連携に努めました。

お客様相談室の廃部に伴い法務・審査部内で引継いだ顧客対応業務（電話受付、メール受付業務）は、その業務の実績を持つ外部に委託し、要員の効率化による経費の削減とともにプロの対応によりNEPの顧客満足度の向上をはかり、安定的に機能しております。

DX推進部門では、システム関連業務としてインフラ管理・セキュリティ対策の強化を図るとともに、業務改革推進プロジェクトと連携した新ERP導入準備や、MS365有効活用基盤の構築による業務の効率化など新たな業務にも取り組みました。

インフラ管理面では、北海道支社・近畿総支社・四国支社・中部支社のWAN回線増速化、東京五輪関連PJの発足などで必要となる各所LAN工事の実施、五輪開催で増大したサイバー攻撃に対するセキュリティ管理などを実施し、円滑で安全な業務実施環境を整えました。

セキュリティ対策面では、11～12月にかけてNEP初の標的型攻撃メール訓練・研修会を実施。全社員・スタッフを対象とした大掛かりな訓練に向けて、訓練内容の立案からヘルプデスク対応まで一貫した業務フローを確立し、全社の対応リテラシー向上を図りました。

新ERP導入準備面では、業務改革推進プロジェクトにおける事務局担当・インフラ構築担当・ユーザートレーニング担当・問い合わせシステム担当を分掌し、各開発分科会と連携して来期からのシステム刷新に向けた環境構築を推し進めました。

MS365有効活用基盤の構築面では、社内から利活用希望の高いソフトウェアのセキュリティ・利用環境・利用ルールを三位一体で整備するなど、全社的な業務の効率化・合理化を推進しました。

(15) <分野別売上高>

(単位：千円)

区 分	第 3 2 期 (2020. 4. 1～2021. 3. 31)		第 3 3 期 (2021. 4. 1～2022. 3. 31)		対前年度増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
放 送 番 組 制 作	40,604,948	68.7%	41,806,209	67.4%	1,201,260	3.0%
映 像 ソ フ ト 販 売	3,443,337	5.8%	3,469,868	5.6%	26,531	0.8%
イ ベ ン ト ・ ソ フ ト 制 作	6,090,871	10.3%	6,601,016	10.6%	510,144	8.4%
番 組 提 供 ・ デ ジ タ ル 制 作	3,732,284	6.3%	4,149,048	6.7%	416,763	11.2%
キ ャ ラ ク タ ー 事 業	747,337	1.3%	742,663	1.2%	△4,673	△0.6%
権 利 ビ ジ ネ ス	3,204,181	5.4%	4,125,894	6.7%	921,713	28.8%
N O D 事 業	731,446	1.2%	586,151	0.9%	△145,294	△19.9%
受 託 映 像 国 際 放 送	526,604	0.9%	546,055	0.9%	19,450	3.7%
合 計	59,081,011	100.0%	62,026,907	100.0%	2,945,895	5.0%

※構成比・増減率は小数点第二位以下を四捨五入して表示

(参考) 2021年度 コンクール等受賞一覧

【国内コンクール】

コンクール名	部門/賞	番組および商品名など
第20回放送人グランプリ 2021	グランプリ特別賞	NHK東日本大震災プロジェクト
第58回ギャラクシー賞	テレビ部門/奨励賞	ドラマ10「オリバーな犬、 (Gosh!!) このヤロウ」
第58回ギャラクシー賞	テレビ部門/奨励賞	新日本風土記 スペシャル「松本清 張・鉄道の旅」
第58回ギャラクシー賞	テレビ部門/奨励賞	岸辺露伴は動かない
第58回ギャラクシー賞	テレビ部門/奨励賞	土曜ドラマ「ノースライト」
第58回ギャラクシー賞	テレビ部門/奨励賞	E TV特集「エリザベス この世界に 愛を」
2021年ギャラクシー賞	10月度月間賞	ドラマ10「オリバーな犬、 (Gosh!!) このヤロウ」
2021年ギャラクシー賞	9月度月間賞	希林と裕也 トリックスター夫婦の昭 和平成史
2021年ギャラクシー賞	8月度月間賞	E TV特集「“玉碎”の島を生きて～ テニアン島 日本人移民の記録～」
2021年ギャラクシー賞	5月度月間賞	土曜ドラマ「今ここにある危機とぼく の好感度について」
2022年ギャラクシー賞	2月度月間賞	ヒヤダ×体育のワンルーム☆ミュージ ック「魔法の機材パッドで曲作り× STUTS」
第37回ATP賞テレビ グランプリ	グランプリ	プロフェッショナル 仕事の流儀 「庵野秀明スペシャル」
第37回ATP賞テレビ グランプリ	ドキュメンタリー部門 /最優秀賞	プロフェッショナル 仕事の流儀 「庵野秀明スペシャル」
第37回ATP賞テレビ グランプリ	情報・バラエティ部門 /優秀賞	新日本風土記 スペシャル 「松本清張 鉄道の旅」

第 37 回 A T P 賞テレビ グランプリ	ドキュメンタリー部門 /奨励賞	B S 1 スペシャル「外出自粛の夜に」 (1 回目)「世界とつながる夜」(2 回 目) ウクレレでリレー音楽会
第 37 回 A T P 賞テレビ グランプリ	情報・バラエティ部門 /奨励賞	グレートヒマラヤトレイル §4 カン チェンジュンガ「五大宝蔵を求めて」
第 37 回 A T P 賞テレビ グランプリ	ドラマ部門/奨励賞	スペシャル時代劇「十三人の刺客」
第 37 回 A T P 賞テレビ グランプリ	奨励新人賞	横田洋「レギュラー番組への道 浮世 物語～江戸の疫病処世術～」
第 37 回 A T P 賞テレビ グランプリ	総務大臣賞	B S 1 スペシャル「良心を束ねて河と なす～医師・中村哲 73 年の軌跡 ～」
第 15 回映文連アワード 2021	ソーシャル・コミュニケー ション部門/部門優秀賞	「カールさんとティーナさんの古民家 村だより」
第 15 回映文連アワード 2021	ソーシャル・コミュニケー ション部門/部門優秀賞	8 K アドベンチャー「天空を駆ける民 ララムリ」
第 76 回 文化庁芸術祭	テレビ・ドラマ部門 /大賞	土曜ドラマ「今ここにある危機とぼく の好感度について」
第 9 回 A T P 上方番組大賞	優秀賞	関西おせっかいハウス ほっとけない のアンタのことが
第 25 回文化庁メディア芸術祭	エンターテインメント 部門/大賞	浦沢直樹の漫勉 neo(9)「安彦良和」
第 13 回メディア・アンビシャ ス大賞	映像部門/アンビシャス賞	E T V 特集「エリザベス この世界に 愛を」
第 13 回メディア・アンビシャ ス大賞	映像部門/メディア賞	E T V 特集「“玉砕”の島を生きて～ テニアン島日本人移民の記録～」

【国外コンクール】

コンクール名	部門/賞	番組および商品名など
第 22 回ワールド・メディア・フェスティバル	ドキュメンタリー部門：インクルージョン & 多様性カテゴリー/インターメディア・グローブ金賞	B S 1 スペシャル「ジェイクとシャリース～僕は歌姫だった～」
第 22 回ワールド・メディア・フェスティバル	ドキュメンタリー部門：アートカテゴリー/インターメディア・グローブ銀賞	N H K スペシャル「モネ 睡蓮～よみがえる“奇跡の一枚”～」
第 46 回オタワ国際アニメーション映画祭	未就学児童向けアニメーション部門/特別賞	プチプチ・アニメ こにぎりくん「えんそうかい」
第 25 回ソウル国際マンガ・アニメーション映画祭	テレビアニメーション部門/最優秀作品賞	プチプチ・アニメ リヴ&ベル「ベルくんのほそくてながいお友達」
ニューヨーク・フェスティバル	ドキュメンタリー部門(自然・ワイルドライフ)/金賞	ワイルドライフスペシャル「ワイルド東京」
A A A (アジアン・アカデミー・クリエティブ・アワード)	アニメ(2D/3D、単発/シリーズ)部門/最優秀賞	「アーヤと魔女」
A A A (アジアン・アカデミー・クリエティブ・アワード)	自然番組部門/最優秀賞	ワイルドスペシャル「ワイルド東京」
第 9 回グリーンイメーজ国際環境映画祭	グリーンイメージ賞	N H K スペシャル「ワイルド東京」
2021 年 15th Asian Film Awards	作品賞・主演女優賞・衣装デザイン賞	スパイの妻

3. 対処すべき課題

2022年度は、NEPにとって中期経営計画（2021～2023年度）の2年目となります。引き続き、5つの重点項目（①コア事業の革新、②新規事業の開拓、③地域サービスの向上、④Smart Work、⑤SDGsへの貢献）を柱に、計画達成をより確かなものにしていきます。2022年度はNHKの改革が一層進み、更なる委託費削減も見込まれます。2023年度に迫ったBS波の削減とともに受信料値下げ、そして中間持株会社の設立計画など、かつてないほど経営環境を揺るがす局面が待ち受けています。いま一度、経営理念『Enterprises for All！ 冒険、創造、貢献。社会のために、すべての人のために！』に立ち返り、さまざまな事業に挑戦していきます。

NHKの2022年度番組改定では、加速するトータルリーチの下落に歯止めをかけるため、コンテンツ強化、若年層とのタッチポイント拡大に注力するとしています。これはNEPにとって大きなチャンスです。次代を見越して開発してきた映像演出と技術を、より多くのNHK番組として結実させていきます。さらに、全国支社を舞台に、地域番組と連動した視聴者参加型イベントなどにも積極的に取り組みます。

コンテンツの国内外展開も引き続き強化します。アニメや海外ドラマにおいては、放送やネット配信など多角的なメディア展開を進め、権利展開ビジネスを拡大していきます。

新規事業の開拓はNEPの原動力です。2019年度に開発したビデオレストアサービスは、有望な事業へと成長しています。ローカル5Gによるワイヤレス映像撮影システムや、8K技術のエンターテインメント分野での放送外利用、美術品撮影に特化した超高解像度自動撮影システムなど、開発してきた最新デジタル技術を活用した事業を軌道に乗せるとともに、今後も社会にソリューションを提供する新規事業に取り組みます。

また、SDGsに関しては、目標達成に寄与するためさまざまな取り組みを引き続き行います。社内横断のSDGsプロジェクトを発足して3年目となる今年度は、「社会貢献」を継続可能な事業にすることを目標とし、積極的な開発に取り組みます。さらに、NHKグループ横断の企画立案、その実現も目指します。

経営においては、今後地域支社を取り巻く経営環境が厳しくなる状況を見据え、一部の地域支社の組織改正を7月に行います。これまでの3部制(制作部、企画事業部、総務部)を、1つの部に統合することで、放送と事業が密接に連携した体制を構築し、今後も地域の放送サービスを支え続けます。

さらに、NEPをさらに成長させるため、社長直轄で3つのタスクフォースを立ち上げます。次の3か年の経営戦略を考える「次期経営戦略タスクフォース」、数年先の事業の柱となる新規事業を開発する「未来事業開発タスクフォース」、そして社員1人1人の能力を最大限に発揮させるため、管理職の人財マネジメント能力を向上させる「人財・組織開発タスクフォース」です。

2022年度もNHKエンタープライズは、どんな変化にも動じない、スリムで強靱な組織を目指してまいります。

4. 設備投資等の状況

当期の設備投資総額は10億89百万円で、内容は以下のとおりです。

(単位 百万円)

資産の種類	取得価額	備考
有形固定資産 建物・構築物	4	LAN工事等
有形固定資産 工具器具備品	52 7 31	システムサーバー、編集機他 PC、HDD他周辺機器 什器その他
無形固定資産 ソフトウェア	952 42	新基幹システム Web 試写システム、その他
計	1,089	

5. 資金調達の状況

前記の設備投資の資金は、自己資金で充当しています。

6. 事業譲渡・吸収分割または新設分割の状況

該当事項はございません。

7. 事業譲受の状況

該当事項はございません。

8. 他の会社の株式その他の持ち分または新株予約権等の取得の状況

該当事項はございません。

9. 財産および損益の状況の推移

(単位：千円)

区 分	第 30 期 (2019 年 3 月期)	第 31 期 (2020 年 3 月期)	第 32 期 (2021 年 3 月期)	第 33 期 (2022 年 3 月期)
売 上 高	59,191,613	60,702,871	59,081,011	62,026,907
営 業 利 益	2,082,625	2,908,613	2,235,524	1,985,077
経 常 利 益	2,342,779	3,280,046	2,334,960	2,051,608
当 期 純 利 益	1,604,812	1,277,029	1,497,386	1,512,604
1 株 当 たり 当 期 純 利 益	272,279 円 09 銭	216,666 円 00 銭	233,201 円 38 銭	238,459 円 11 銭
総 資 産	28,243,496	28,791,741	32,501,895	37,070,312
純 資 産	15,865,822	16,158,423	18,947,404	19,283,697

10. 主要な事業内容

- (1) 放送番組の企画、制作、購入
- (2) 有線テレビジョン放送事業者への放送番組の頒布
- (3) 映像国際放送の実施に関連する業務
- (4) 放送番組に係るコンテンツ等の著作物の発行、頒布
- (5) 放送に関連した催し物や公共的な各種催し物の企画、実施

11. 主要な事業所等

本 社 東京都渋谷区神山町4番14号 第三共同ビル
近畿総支社 大阪市中央区谷町三丁目1-18 NS21ビル
四国支社 松山市堀之内5 NHK松山放送局内
中部支社 名古屋市東区東桜一丁目13-3

NHK名古屋放送センタービル
 中国支社 広島市中区大手町二丁目11-10
 NHK広島放送センタービル
 九州支社 福岡市中央区六本松一丁目1-10
 NHK福岡放送センタービル
 東北支社 仙台市青葉区本町二丁目9-7 仙台YFビル
 北海道支社 札幌市中央区北一条西九丁目1-5
 NHK札幌放送局内

NHKアーカイブス 埼玉県川口市上青木三丁目12-63
 ワーブステーション江戸 茨城県つくばみらい市南太田1176

12. 従業員の状況

	従業員	NHK出向者等	計	増減	平均年齢
男	374名	112名	486名	△ 37名	52才 1か月
女	189名	22名	211名	△ 7名	46才11か月
計	563名	134名	697名	△ 44名	50才 6か月

注1：役員、デジタルSKIPステーション、海外現地法人、NHK文化センター、NHKへの出向者は含みません

注2：契約社員を含みます

13. 重要な親会社および子会社の状況

(1) 親会社との関係

当社の親会社は、NHKであり、当社の株式5,229株を保有しており、これは当社の議決権比率の82.7%に当たります。

当社は、NHKからの委託による放送番組などの制作と購入、有線テレビジョン放送事業者への放送番組の頒布、映像国際放送の実施、NHKの放送番組に係るコンテンツ等の著作物の発行と頒布、NHKの放送に関連した催し物や公共的な催し物の企画と実施、これらに関連する業務およびNHKが制作した番組の利用権の購入などを行っております。

(2) 重要な子会社の状況

該当事項はございません。

(3) 親会社等との間の取引に関する事項

当社では、親会社NHKとの取引をするにあたり、独立した第三者との間の取引と同等の条件であることを確認し、取締役会において当該取引について相当との判断を行いました。

14. 主要な借入先と借入額

借入先	借入金残高
株式会社 みずほ銀行	50,000 千円

Ⅱ. 会社の株式に関する事項

1. 発行可能株式総数 10,000 株
2. 発行済株式の総数 6,421 株
(自己株式数 101 株)
3. 議決権総数 6,320 個
4. 期末株主数 7 名
5. 株 主

株 主 名	持 株 数	持株比率
日本放送協会	5,229 株	82.74%
株式会社NHKテクノロジーズ	240 株	3.80%
株式会社NHKグローバルメディアサービス	210 株	3.32%
株式会社NHK出版	181 株	2.86%
株式会社NHKエデュケーショナル	158 株	2.50%
株式会社NHKアート	154 株	2.44%
株式会社NHKプロモーション	148 株	2.34%

Ⅲ. 会社役員に関する事項

1. 役員の地位、氏名、担当、兼職の状況

(2022年3月31日現在)

地 位	氏 名	担 当	他の法人の代表または重要な兼職の状況
代表取締役社長	松本 浩司	全体統括	
常務取締役	矢野 達史	NHK取引統括	
常務取締役	山崎 秋一郎	地域統括 大阪・関西万博統括	
常務取締役	河内 秀則	経営企画統括	
常務取締役	菅 康弘	NHK取引統括補佐 海外戦略統括	
取締役	諏訪 雄一	新規事業開発・SDGs統括 大阪・関西万博統括補佐 建築管理（建設業経営管理業務責任者）	
取締役	押田 敦	一般取引統括	
取締役	松本 俊博	CDXO イノベーション戦略・業務改革推進統括	
取締役 (非常勤)	田波 宏規		㈱NHKエデュケーショナル 社長
取締役 (非常勤)	土井 成紀		㈱NHK出版社長
取締役 (非常勤)	吉野 真史		NHK地域改革推進 室長
取締役 (非常勤)	白川 友之		NHK関連事業局 専任部長
取締役 (非常勤)	熊埜御堂朋子		NHK編成局長
取締役 (非常勤)	山名 啓雄		NHK制作局長
監査役	渥美 哲		
監査役 (社外)	大月 将幸		弁護士・公認会計士
監査役 (社外)	海野 正一		
監査役 (非常勤)	小山 雅典		NHK内部監査室監査部 専任部長

注1：2021年6月24日付で、松本浩司が代表取締役社長に、矢野達史が常務取締役に、土井成紀、吉野真史、白川友之、山名啓雄が取締役（非常勤）に就任しました。また、同日付で安齋尚志、尾崎充信が取締役を、森永公紀、江口貴之が取締役（非常勤）を退任しました。

注2：2021年6月23日付で、堤優加が監査役（社外）を退任いたしました。

注3：監査役渥美哲は、内部統制とリスクマネジメントに関する知見を有し、放送事業に高い見識を持っています。監査役（社外）大月将幸は、弁護士・公認会計士の資格を有し、法務、財務および会計に関

する相当程度の知見を有しています。監査役（社外）海野正一は、内部統制に関する知見を有し、企業経営に高い見識を持っています。

2. 取締役・監査役の報酬総額

役員区分	報酬の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額		対象役員 数
		定額部分	変動部分	
取締役 (社外役員を除く)	143,544千円	116,101千円	27,443千円	10人
監査役 (社外役員を除く)	11,760千円	11,760千円		1人
社外役員	15,873千円	15,873千円		2人

※使用人兼務取締役の使用人給与部分を含みます。

※非常勤取締役10人、非常勤監査役2人に対しては、報酬を支払っていません。

3. 社外役員に関する事項

社外監査役

社外監査役のうち、大月将幸監査役は当年度に開催された取締役会に5回出席[5回開催中]、監査役会に5回出席[5回開催中]し、当社の業務執行における適正性確保の観点から提言をしています。

海野正一監査役は当年度中に開催された取締役会に5回出席[5回開催中]、監査役会に5回出席[5回開催中]し、当社の業務執行における適正性確保の観点から提言をしています。

堤優加監査役は2021年4月から6月の在任期間中に開催された取締役会に1回出席[1回開催中]、監査役会に1回出席[1回開催中]し、当社の業務執行における適正性確保の観点から提言をしています。

IV. 会計監査人の状況

1. 会計監査人の名称

E Y 新日本有限責任監査法人

2. 会計監査人の報酬等

公認会計士法第2条第1項の業務に関する報酬 30,000千円

注1：当社の監査役会は、前事業年度における監査計画と実績の比較を行い、監査時間および報酬額の推移を確認し、当事業年度の監査予定時間および報酬額の妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬について、会社法第399条第1項および第2項の規定による同意を行っております。

3. 会計監査人の非監査業務の内容

当社は会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務（非監査業務）である、収益認識会計基準等への移行にかかわる会計上の影響度調査業務を委託し、対価を支払っております。

4. 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

会社法第340条第1項各号に掲げられている事由およびこれに準ずる事由等を会計監査人の解任または不再任の決定根拠としております。

5. 会計監査人の責任限定契約の内容

該当事項はございません。

備考：報告中の記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示してあります。

V. 業務の適正を確保するための体制および運用状況

1. 業務の適正を確保するための体制

当社は、会社法第362条第4項第6号の規定や会社法施行規則の規定に従い、当社の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）について、以下のとおり、取締役会で決議しています。

（平成27年9月17日 取締役会決議）

（1）当社の取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

①当社は取締役、社員を含めた行動規範として、「NHKエンタープライズ倫理・行動憲章と行動指針」を定め、これらの遵守を図っている。

また、コンプライアンスを確保するため、「リスクマネジメント委員会運営に関する規程」を定め、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を設置し、全社的に法令遵守が確保される体制をとっている。

今後さらに取締役、社員のコンプライアンスの徹底を図るため、すでに設置されている「コンプライアンス相談・通報規程」「相談・通報窓口」などを社内に効果的に周知し、適宜、法令等の遵守状況をモニタリングする。

②取締役会については、「NHKエンタープライズ取締役会規則」が定められ、その適切な運営が確保されており、定例で開催するほか、必要に応じて随時開催し、取締役間の意思疎通を図るとともに相互に職務執行を監督し、法令・定款違反行為を未然に防止している。万一、取締役が他の取締役の法令・定款違反行為を発見した場合は直ちに監査役および取締役会に報告するなどして、その徹底を図っていく。

③同様に、社長、常勤役員ほかで構成する常勤役員会については「役員規程」、執行役員については「執行役員規程」を遵守し、職務執行の法令・定款への適合を確保していく。また、監査役は、取締役の職務執行、経営機能に対する監督強化を図っていく。

④コンプライアンス関連の研修、社内報等による啓発、社員総会などによる意識づけに努め、全社的な法令遵守の一層の推進を図るとともに、「稟議規程」「経理規程」により、取締役、社員の職務執行の透明性を向上させる。

(2) 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

- ①「株主総会議事録」「取締役会議事録」「常勤役員会議事録」については、適切かつ確実に保存・保管され、「常勤役員会議事録」については、取締役および監査役が常に閲覧可能な状態に置かれている。
- ②「文書管理規程」に定められた文書の扱いを遵守することにより、取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に適正を期す。

(3) 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ①当社は、当社の事業に係るリスクとして、投資的リスク、下請法等法令違反につながるリスク、企業機密への不正アクセス・漏洩等情報セキュリティ的リスクなどを認識し、信用調査、対応マニュアルの整備等を進めている。また、公共放送グループの一員として、公金の扱いについては特に厳正を期し、万が一にも社会的な指弾を受けることのないよう注意を払っている。さらにNHKグループ全体にかかわるリスクについては、「NHKグループ通報制度規程」にもとづいて、NHK総合リスク管理室に、速やかに報告・連絡することになっている。
- ②新たなリスクが発生した場合には、必要に応じ、速やかに対応責任者となる取締役を定める。

(4) 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ①職務権限および職制を定め、取締役の職務権限と責任および指揮命令系統を明確にしている。
- ②重要な意思決定については、常勤取締役等による役員会などにより多面的に検討し、慎重に決定する仕組みを設けている。
- ③ITを活用した稟議システムを構築し、迅速な意思決定を図っている。
- ④中期経営計画およびそれを受けた年度事業計画を策定し、事業ごとの目標値を設定し、業績を把握し、適宜見直しを行っている。
- ⑤さらに効率的に職務を執行するために、内部統制との関係を考慮しつつ、案件に応じた職務権限の委譲を検討していく。

(5) 当社ならびにその親会社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- ①当社の親会社にあたるNHKの子会社等の事業が適切に行われることを目的として、「関連団体運営基準」により、事業運営およびこれに対するNHKの指導・監督等に関する基本的事項が定められており、当社も該当している。
- ②NHKは、「関連団体運営基準」に関する事項およびNHKが指定する事項について、監査法人等に委嘱して関連団体の業務運営状況調査を実施し、監査法人等の報告に基づき、関連団体に対し必要な指導・監督を行っており、当社も該当している。
- ③NHKの監査委員は、NHK役員の職務の執行を監査するため必要があるとき、当社の事業の報告を求めたり、当社の業務および財産状況を調査できることになっており、その場合には、当社は、適切な対応を行う。
- ④NHKは、全国民の基盤に立つ公共放送の機関として、不偏不党の立場を守って、放送による言論と表現の自由を確保し、豊かで、良い放送を行うことを目的とした法人である。

また、放送法により、NHKに対する公共的規制は、国民の代表である国会を中心として行われ、毎年度の予算・事業計画は国会での承認を要している。

NHKには、経営方針その他その業務の運営に関する重要事項を決定する権限と責任を有する経営委員会が設置され、会長等による業務の執行と監督の機能とが明確に分離され、適正なガバナンスが確保されており、業務の実施にあたっては、「NHK倫理・行動憲章」「行動指針」の策定、「通報窓口」の整備などにより、適正が確保されていると理解している。

- ⑤当社の子会社等については、定期的に業務報告を受けており、当社担当取締役によって、日常的にチェックが行われている。

また、子会社等のコンプライアンスについては、子会社等の社長を責任者とする体制を整備し、法令遵守にあたることになっている。

(6) 当社の監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項、当該使用人の取締役からの独立性に関する事項および当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

- ①監査役からの求めがあった場合には、監査役の職務を補助すべき使用人として、当

社社員から監査役補助者を任命する。監査役補助者の任命、解任、人事異動、賃金等については、監査役会の同意を得た上で、取締役会が決定する。なお、平成21年3月、監査役から求めがあったので、監査役補助者を任命している。

②監査役補助者は、当社業務を兼務することができるが、監査役より監査業務に必要な命令を受けた場合は、その命令に関して、取締役の指揮命令を受けないものとする。

(7) 当社の取締役および使用人が当社の監査役に報告をするための体制、報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

①取締役または使用人は、法定の事項に加え、当社および当社グループに重大な影響を及ぼす事項の内容を、監査役にそのつど報告するものとする。

②監査役は、いつでも必要に応じて、取締役および使用人に対して報告を求めることができる。

③当社は、監査役に報告をした者に対して、その報告を行ったことを理由として不利益な取扱いを行うことを禁止する。

(8) 当社の監査役職務の執行について生ずる費用の前払い等に係る方針に関する事項、その他監査役職務の執行が実効的に行われることを確保するための体制

①監査役からその職務の執行について生ずる費用の前払い、負担した債務の弁済等の請求があったときは、当該請求に係る費用または債務が、監査役職務の執行に必要なでない場合を除き、当該費用または債務を処理する。

2. 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社の取締役会は、取締役14名（うち、非常勤取締役6名）で構成されていて、社外監査役2名を含む4名の監査役も出席し、業務執行取締役から業務執行状況の報告が行われるとともに重要事項の審議・決議を行っています。

また、常勤監査役は、取締役会のほか常勤役員会等の社内の重要会議に出席するとともに、取締役から業務執行の状況について直接聴取を行い、業務執行の状況や

内部統制、コンプライアンスに関する問題点を監視する体制を整備していて、経営監視機能の強化および向上を図っています。

コンプライアンスに関する取り組みの状況では、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を開催し、コンプライアンスやリスクマネジメントに関する報告や決定が行われています。また、全役員、社員等を対象とした研修活動も定期的にも実施してコンプライアンスの徹底を図っています。当社の内部監査部門では、年度ごとの内部監査計画に基づき内部監査を実施しています。

3. 業務の適正を確保するための体制の評価

全社的な内部統制について、「統制環境」「リスクの評価と対応」「統制活動」「情報と伝達」「モニタリング」「ITへの対応」という6つの観点から、整備状況および運用状況の有効性を評価しました。また、業務上重要なリスクを抽出した上で、必要な対応が実施されていることを評価しました。

評価の結果、2022年3月31日時点における当社の内部統制は、概ね有効であると判断しました。